

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
古代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	古代日本文学における散文を輪読する。古典文学読解の基礎能力や、神話や物語の話型、作中和歌の特徴などの基本的理解をふまえたうえで、神話や物語がかかえている諸問題を掘り起こすために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 神話や物語の話型を説明できる。(知識・理解) 2. 作中和歌と神話・物語の関係性について説明できる。(知識・理解) 3. 神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を提起できる。(思考・判断・表現) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 神話や物語の話型を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 作中和歌と神話・物語の関係性について基本的に説明できる。(知識・理解) 3. 神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題をある程度提起できる。(思考・判断・表現) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
古代日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	古代日本文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古代文学の中心を成すものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識と、当時の文化・社会の状況、和歌そのものの成り立ちなどについての基本知識をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 古代日本文学における和歌史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる(知識・理解) 2. 和歌資料を調査し分析することができる(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる(思考・判断・表現) 4. 和歌を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 古代日本文学における和歌史の流れを説明することができる(知識・理解) 2. 和歌資料を調査し分析する方法を身につけている(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる(思考・判断・表現) 4. 和歌を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
中・近世日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	この授業では、中・近世文学における散文を取り上げて輪読する。中・近世の散文はそれ以前の文学の影響を強く受けたものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、作品を丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を実践してゆく。	1. 中・近世日本文学における散文史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる(知識・理解) 2. 中・近世の散文資料を調査し分析することができる(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる(思考・判断・表現) 4. 中・近世の散文を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 中・近世日本文学における和歌史の流れを説明することができる(知識・理解) 2. 中・近世の資料を調査し分析する方法を身につけている(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる(思考・判断・表現) 4. 中・近世の散文を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
近代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代文学における散文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。(知識・理解) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が身に付いている。(知識・理解) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる程度はできる。(知識・理解) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身に付いている。(知識・理解) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる程度はできる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
日本語研究B(近代語)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。まずは近代日本語に関する基本的な知識とともに、近代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な近代文学作品に適用する。	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることができる。(知識・理解) 2. 近代語全体の様相に関する知識が身に付いている。(知識・理解) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることができる程度はできる。(知識・理解) 2. 近代語全体の様相に関する知識がある程度は身に付いている。(知識・理解) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる程度はできる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
漢文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	漢文学作品を輪読し、その文学史上、また思想上の意義を明らかにする。漢文訓読の基礎と、日本文学に大きな影響を与えた中国の歴史、また思想、文学に関わる基本的知識をふまえ、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が十分に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が大学院レベルで身に付く。(技能) 3. 漢文学の特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で適切に表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界がある程度は理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が学部レベル以上で身に付く。(技能) 3. 漢文学の特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章でほぼ表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を相応に強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)
書誌学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	所謂〈和本リテラシー〉について、古代から現代に至るメディアの変遷を軸に、具体的なモノとしての文献資料の性質とその扱い方を実践的に取り扱う。さらには現代の機械可読テキストや電子化された画像メディアについても、それぞれのメディアの特質と限界とについて具体的かつ詳細に検討する。	1. 文献資料(書物)についての深い書誌学的知識を獲得する。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むためのスキルを身につける。(技能) 3. 2)に基づいて高度な書誌調査を実践し、課題の発見や考察を行うことができる。(思考・判断・表現)	1. 文献資料(書物)についての書誌学的知識を身につける。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むことができるようになる。(技能) 3. 2)に基づいて書誌調査を実践する。(思考・判断・表現)
日本文学基礎研究A(古代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	上中古・近世日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることで、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1. 対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1. 対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)
日本文学基礎研究B(近代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることで、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1. 対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1. 対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
論文英語ライティング I	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1	1	英語で修士論文を執筆するために必要な英語ライティング力をつけることをめざす。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語（lingua franca）としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、自分が発表した修士論文の読者が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語で論文を書く態度も大切である。	1. 自信を持って英語で論文を書くことができる。（技能） 2. 常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3. 論文としてふさわしい書き方が十分にできる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1. 英語で論文を書くことができる。（技能） 2. 読みやすい文章を英語で書くことができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3. 論文としてふさわしい書き方ができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
英語学研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	日本では「英語学」という学問領域名は linguistics（言語学）の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1) 英語とはどのような言語であるのかということ考察すること。(2) 人間の言語とはどのような特徴を持つのかということ考察すること。本科目は、英語および人間の言語の体系面に着目する。英語および人間の言語がどのように成り立っているのかということについて、深く研究することをめざす。	1. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語学・言語学の知識を十分に活用して、修士論文を執筆することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語学・言語学の知識を活用して、修士論文を執筆することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
イギリス文学文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	イギリス文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、19世紀までに発表された特定のイギリス文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 19世紀までのイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたイギリス文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 19世紀までのイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたイギリス文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	アメリカ文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、19世紀までに発表された特定のアメリカ文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 19世紀までのアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたアメリカ文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 19世紀までのアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたアメリカ文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語文学批評研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、英語文学の批評の成り立ちから、構造主義までについて、主要な批評を読み、研究する。文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても研究する。	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例をあげ、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英文表現法 I (英文表現の基礎)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	This is an introductory writing class for first year students in the MA course. For those students who choose to write their MA thesis in English, it is very important to get as much experience in writing English as possible during the first year. The teacher will work individually with students to improve each student's writing. Students will write partial essays (with multiple drafts) and have smaller assignments as well. The first semester will focus on narrative, summary, and reaction writing. 修士論文のレベルに即した英語の表現技術を身に付けることができるための基礎的な練習を、いくつかの短めの文章を仕上げる。	The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解) (思考・判断・表現)	The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解) (思考・判断・表現)
英文表現法 II (英文表現の応用)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	The teacher will work individually with students to improve each student's writing. Students will write two essays (with multiple drafts) and have smaller assignments as well. This semester focuses on argumentative and literary analysis. 英語表現法 I の成果をふまえて、さらにその技術の向上をめざして、議論的あるいは文学的な分析を重点とした文章を書く練習を行い、個別に指導する。	The student will further improve her academic writing skills, increasingly focusing on her theses. (知識・理解) (思考・判断・表現)	her academic writing skills, increasingly focusing on her theses. (知識・理解) (思考・判断・表現)
論文英語表現法 I (論文英語の基礎)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	2	This is an advanced writing class for second year students in the MA course. Since students will be preparing to write their MA theses in English while taking this course, we will concentrate on the skills they need to write a thesis in English. These include research methods, focusing the student's thesis topic, the effective use of quotations, close analysis of the text, and logical presentation of the student's argument. At the end of the first semester, students will be ready to begin writing their thesis. 調査方法、効果的な引用法、資料分析法、論理的な議論法などを含み、修士論文の準備として、英文論文の執筆法の練習を行う。	At the conclusion of the course, students will know how to conduct research for their theses, how to use quotations effectively, how to critically analyze the text they are writing about, and how to logically present their arguments. They will be ready to begin writing their theses. (知識・理解) (思考・判断・表現)	At the conclusion of the course, students will know how to conduct research for their theses, how to use quotations effectively, how to critically analyze the text they are writing about, and how to logically present their arguments. They will be ready to begin writing their theses. (知識・理解) (思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
論文英語表現法Ⅱ（論文英語の応用）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	2	Drawing on the skills learned during the first semester, students will actually begin writing their theses. Each week, students will present drafts of their theses and receive advice on how they may be improved. In addition to honing their writing skills, students will discuss the following topics with the teacher: chapter divisions, the transition from one chapter to another, and the organic unity of the thesis as a whole. 論文英語表現法Ⅰの成果をふまえて、実際の修士論文の草稿を章単位で執筆し、毎週、それを提出して、英語表現に関する担当者のアドバイスを受けるとともに、次章の内容・文章について議論してゆく。	At the conclusion of the course, students will have revised the manuscript of their theses until both they and their instructor are satisfied with the results, both in terms of style and content. Students will have successfully completed writing their MA theses.（知識・理解）（思考・判断・表現）	At the conclusion of the course, students will have revised the manuscript of their theses until both they and their instructor are satisfied with the results, both in terms of style and content. Students will have successfully completed writing their MA theses.（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語学特講B（コミュニケーションと英語学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	この授業では、おもには英語コミュニケーションを研究する者にとって必要なレベルの英語学の知識を獲得していく。英語学という学問には、英語の運用法、つまりはコミュニケーションに関する研究分野もある。そうした分野の基本的な知識や研究方法を中心に研究していく。	英語および言語一般に対する深い興味と知識を持ち、それを英語コミュニケーション研究に生かすことができる。（知識・理解）	英語および言語一般に対する興味と知識を持ち、それを英語コミュニケーション研究に生かすことができる。（知識・理解）
中・近世英文学研究B（近世英文学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	近世の英文学作品を取り上げて原文で精読することで、当時の文学作品及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、受講者各自が的確に意見を表明するためのトレーニングを重ね、大学院レベルでの英文学研究の素地を形成する。	近世の英文学作品を原文で深く鑑賞することができる。その特徴を、当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について深く研究できる。（知識・理解）	近世の英文学作品を原文で鑑賞することができ、その特徴を、当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について研究できる。（知識・理解）
近・現代英文学研究Ⅰ（近代イギリス文学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	近代のイギリス小説を原文で精読する。英語で書かれた作品を読み、解釈する力を育成し、その過程で、各自が抱いた関心や疑問点について、より深く掘り下げて考える力を養っていく。	1. 近代のイギリス小説を原文で正しく精読することができる。（知識・理解）（技能） 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景と共に十分に理解した上で、深く考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 自発的に関心・疑問を持ち、英文の解釈、背景の調査に積極的に取り組む姿勢を持つ。（関心・意欲・態度）	1. 近代のイギリス小説を原文で精読することができる。（知識・理解）（技能） 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 自発的に関心・疑問を持ち、英文の解釈、背景の調査に積極的に取り組む姿勢を持つ。（関心・意欲・態度）
近・現代英文学研究Ⅱ（現代イギリス文学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	現代のイギリス小説を原文で精読する。英語で書かれた作品を読みこなし力を育成し、その過程で各自が抱いた関心や疑問点について、より深く掘り下げて考える力を養う。	1. 現代のイギリス小説を原文で正しく精読することができる。（知識・理解）（技能） 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景と共に十分に理解した上で、深く考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現、技能） 3. 自発的に関心・疑問を持ち、英文の解釈、背景の調査に積極的に取り組める。（関心・意欲・態度）	1. 現代のイギリス小説を原文で精読することができる。（知識・理解）（技能） 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景を理解し、考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 作品の精読を通して、何らかの疑問点を持ち、英文の解釈や背景の調査に取り組める。（関心・意欲・態度）
近・現代米文学研究Ⅰ（近代アメリカ文学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	近代のアメリカ文学作品を取り上げて原文で精読することで、アメリカの文学及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、アメリカ文学作品を原文で味わう英語力を培い、自分の意見を表明するためのトレーニングを重ねる。	1. 近代のアメリカ文学作品の特徴を、アメリカの文化的・社会的背景と共に深く理解できる。（知識・理解） 2. 自分自身の問題意識から生じたテーマについて、先行研究を踏まえながら分析し、自分の意見を自信を持って表現することができる。（思考・判断・表現）	1. 近代のアメリカ文学作品の特徴を、アメリカの文化的・社会的背景と共に理解できる。（知識・理解） 2. 自分自身の問題意識から生じたテーマについて、先行研究を踏まえながら分析し、自分の意見を表現することができる。（思考・判断・表現）
近・現代米文学研究Ⅱ（現代アメリカ文学）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	現代のアメリカ文学作品を取り上げて原文で精読することで、アメリカの文学及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、アメリカ文学作品を原文で味わう英語力を培い、自分の意見を表明するためのトレーニングを重ねる。	1. 現代のアメリカ文学作品の特徴を、アメリカの文化的・社会的背景と共に深く理解できる。（知識・理解） 2. 自分自身の問題意識から生じたテーマについて、先行研究を踏まえながら分析し、自分の意見を自信を持って表現することができる。（思考・判断・表現）	1. 作品の原文を正確に理解し、現代アメリカ文学の中での位置づけを理解することができる。（知識・理解） 2. 作品の読解を通して、自分自身の問題意識を持つことができる。（思考・判断・表現）
近・現代英米文学特講Ⅰ（イギリス文学批評）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	主にイギリス文学に関する、またイギリスの批評家による代表的な文学批評を読む。文学およびその批評を「読む」とはということなのか考える。	1. 文学批評を、文学史や批評史を踏まえて、正しく読解することができる。（知識・理解） 2. 文学批評と具体的な作品を関連させて、深く考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 文学批評の読解、文学研究を深めることに、積極的に取り組める。（関心・意欲・態度）	1. 文学批評を、文学史や批評史をある程度踏まえて、読解することができる。（知識・理解） 2. 文学批評と具体的な作品をある程度関連させて、考察することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 文学批評の読解、文学研究を深めようとする態度を身に着けている。（関心・意欲・態度）
近・現代英米文学特講Ⅱ（アメリカ文学批評）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	主にアメリカ文学に関する、またアメリカの批評家による代表的な文学批評を読む。文学およびその批評を読むとはということなのか考える。	1. 文学批評を、文学史や批評史を踏まえて、正しく読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品を関連させて、深く考察することができる。（知識・理解、思考・判断・表現） 3. 文学批評の読解、文学研究を深めることに、積極的に取り組める。（思考・態度）	1. 文学批評を、文学史や批評史をある程度踏まえて、読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品をある程度関連させて、考察することができる。（知識・理解、思考・判断・表現） 3. 文学批評の読解、文学研究を深めようとする態度を身に着けている。（思考・態度）
近・現代英米文学講読A（英米の戯曲）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	原文を精読することで、英米における戯曲という作品形態の特徴および当時の文化的・社会的背景への理解と関心を深めていく。また、戯曲を原文で味わう英語力を培うとともに、的確に意見を表明するためのトレーニングを重ねていく。	1. 戯曲を原文で深く鑑賞することができる。（知識・理解） 2. 当時の文化的・社会的背景と共に十分に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について深く分析することができる。（思考・判断・表現）	1. 戯曲を原文で鑑賞することができる。（知識・理解） 2. 当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について分析することができる。（思考・判断・表現）
近・現代英米文学講読B（英米の詩）	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	原文を精読することで、英米における詩という作品形態の特徴、および当時の文化的・社会的背景への理解と関心を深めていく。また、詩を原文で味わう英語力を培っていき、的確に意見を表明するためのトレーニングを重ねていく。	1. 詩を原文で深く鑑賞することができる。（知識・理解） 2. 当時の文化的・社会的背景と共に十分に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について、深く分析することができる。（思考・判断・表現）	1. 詩を原文で鑑賞することができる。（知識・理解） 2. 当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、自分が関心を持ったテーマや箇所について、分析することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
劇文学論	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	劇文学とは、おもに演劇の台本、つまり戯曲を文学としてとらえるものである。この授業では、そのとらえ方が具体的にどのようなものなのか、近・現代日本の演劇作品を取り上げていく。そして、その研究や評論、実際の上演舞台の映像なども参考にしながら、戯曲を読み、討論を行なっていくことによって明らかにしていく。	演劇に関するテキストを主体的に解釈することができる。（知識・理解）	演劇に関するテキストを正確に読むことができる。（知識・理解）
舞台美術論	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	舞台美術は、単に記号的に舞台の場面を示すのではなく、劇的な世界像そのものを呈示する構造物である。この授業では、様々な舞台美術に触れ、その機能や効果、それを成立させる根本的な考え方について学ぶ。	1. 舞台美術について論ずるための知識が十分に得られている。（知識・理解） 2. 個別の舞台美術のあり方について、その機能の特徴を具体的に論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）	1. 舞台美術について論ずるための知識が一通り得られている。（知識・理解） 2. 個別の舞台美術のあり方について、その機能の特徴を概ね述べることができる。（技能）（思考・判断・表現）
近・現代日本演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	近現代の日本演劇を研究する上で重要な知識を確認する内容とする。演劇史についての理解を深め、同時に具体的な舞台作品を取り上げて戯曲を読み、どのように上演され、同時代の評価も捉えて考察を加えていく。	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについて正確な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2. 舞台作品の上演について深く考察する基礎技能を身につけることができる。（思考・判断・表現）	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについてある程度の知識を身につけることができる。（知識・理解） 2. 舞台作品の上演について考察する基礎技能を身につけることができる。（思考・判断・表現）
英米演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	主として初期近代イギリスの演劇テキストを、まずは、基本構造あるいは作品の内容（主人公、プロット、テーマ）、次に、修辭的構造あるいはパフォーマンスの形式を理解する。そのうえで、演劇テキストを、ジェンダー・セクシュアリティの視点、およびグローバルな視点から読み解いていく。	英国の演劇を、テキストの基本的構造をおさえうえで、グローバルなメディア文化における意味や価値を、歴史的に、解釈し理解することができるようになる。（知識・理解）	英文で書かれたイギリスの演劇テキストの基本構造（主人公・プロット・テーマ）を分析し、理解することができる。（知識・理解）
ヨーロッパ演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	近現代の西洋演劇の理論について英語資料を読み、それぞれの内容を理解していく。そのうえで、西洋演劇にかかわる、さまざまな情報を収集・整理して、演劇理論のあり方について議論を重ねてゆく。	1. 英語で書かれた文献を十分に読みこなすことができる。（知識・理解）（技能） 2. 演劇理論の総体を理解し、戯曲や上演について具体的に論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた文献をある程度読むことができる。（知識・理解）（技能） 2. 演劇理論の総体を基本的に理解し、戯曲や上演について論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）
演劇学文献研究A（中・近世日本演劇）	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇に関する文献や資料を読む。先行研究から研究方法を学ぶとともに、近世演劇関係の一次資料を読む技術も養う。そのうえで、資料から得た情報を整理して、論を構築していく力をつける。	・近世演劇に関する先行研究を理解し、自身の問題意識に繋げていくことができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 ・近世演劇関係の一次資料をある程度使いこなすことができる（技能）。 ・先行研究や一次資料から得た情報を組み立てて、自身の研究を構築していくことができる（思考・判断・表現）。	・近世演劇に関する先行研究を読むことができる（知識・理解）。 ・近世演劇関係の一次資料の扱い方についての基礎が身につけている（技能）。 ・与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を使いながら論じることができる（思考・判断・表現）。
映画学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	様々な映画を鑑賞しながら、その映像の特色を捉え、製作者の意図や歴史的意義を捉える。文献講読により、映画を論ずるための多角的視点や術語を身につける。	1. 映画史について一般に求められるだけの知識を得て、個々の映画を映画史的な文脈で捉えることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を論じることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 3. 映画学の文献について知識があり、自らアプローチすることができる。（知識・理解）（技能）。	1. 映画史について基礎的知識を得て、個々の映画をある程度映画史的な文脈で捉えることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を見ることできる。（知識・理解）。 3. 映画学の文献に自らアプローチすることができる。（技能）。
芸術論基礎研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法論的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	1. 美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 3. 方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。（関心・意欲・態度）	1. 美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。（知識・理解） 2. イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 3. 方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもちっている。（関心・意欲・態度）
比較芸術研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	美術史に足場を置き、特定の時代・地域・ジャンル・芸術家を対象として、表現形式や内容に、異なる時代や地域の影響、芸術家相互の影響、社会的機能がどのように作用しているかを理解する。それに加えて、作品がどのように受容されたか、複合的な観点から他の芸術領域との関係についても考察する。	1. 美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. 作品の受容について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 3. 複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について深く考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）	1. 美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 2. 作品の受容について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 3. 複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）
比較文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	文学に関する基本理論について多角的に捉え、文学の蘊奥を探究しつつ、その上でフランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。（知識・理解） 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。（知識・理解） 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。（思考・判断・表現）	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。（知識・理解） 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。（知識・理解） 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸と歴史研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	この授業では、織田信長の一代記として最も良質かつ重要な史料である太田牛一『信長公記』を中心素材として、戦国時代から近世社会への時代転換を教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1. 織田信長の天下統一過程と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。（知識・理解） 2. 戦国時代の史料・歴史書を正確に読解する能力が身につけている。（技能） 3. 戦国時代の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。（知識・理解） 4. 歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。（思考・判断・表現） 5. 文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。（関心・意欲・態度）	1. 織田信長の天下統一過程と、それに関連する史料についての概要を習得している。（知識・理解） 2. 戦国時代の史料・歴史書を一通り読解する能力が身につけている。（技能） 3. 歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。（関心・意欲・態度）
文芸とメディア研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力を高めるための討議の場とする。	・知の総合伝達メディアとしての教育について確かな認識をもつ。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。（技能）（思考・判断・表現） ・研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。（関心・意欲・態度） ・研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術分野について学ぼうとする者のニーズに応じられる的確な指導能力を修練する。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。（関心・意欲・態度）	・知の総合伝達メディアとしての教育について理解する。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。（技能）（思考・判断・表現） ・研究成果を他者（次なる文化の担い手）に伝達することの意義を考える。（関心・意欲・態度） ・研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。（技能）（関心・意欲・態度） ・知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をすることができる。（関心・意欲・態度）
文芸学特講ⅠA（フランスの文学と社会）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	フランスの小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教と世俗の関係、階級の変動、教育の普及、さらに男女の「社会的関係」などを理解し、これらの社会的事象とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランスの文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的事象とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）	・フランスの文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的事象とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅠB（フランスの文学と文化）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	フランス語圏の小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教、思想あるいは風習など「文化的背景」を理解していくことで、これらの文化的背景とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランス語圏の文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・文化的背景とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）	・フランス語圏の文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・文化的背景とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅡA（欧米の書誌学）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	欧米の書誌学に関するフランス語の基本的文献を用いて、個々の図書の物理的特徴（書誌事項）を記述する分析書誌学、一定の方式によって文献の書誌事項を配列した書誌（文献リスト）、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を複数提示することができる。（思考・判断・表現）	1. 書誌に関する資料を読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を一項目提示することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅡB（メディアの日米比較）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。そのための営みである広義の教育を、ここでは「知の総合伝達メディア」ととらえ、例えば I. Illich の Deschooling Society、L. Masterman の Teaching The Media など、知の伝達とメディアの本質をめぐる研究・論考の中からテキストを選び、輪読・精読する。	・テキストを自在に読解し、分析・批評する。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・民主主義とメディアについて確かな課題認識をもつ。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術を柱とする知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる。（技能） ・研究成果の伝達のための具体的・実践的方途を提案・実践する。（技能）（思考・判断・表現）	・テキストの輪読に主体的に参加する。（関心・意欲・態度） ・民主主義社会におけるメディアの意味について理解する。（知識・理解） ・文化の伝達はおおよそ高等専門教養を身につけた者の責務であることを認識する。（関心・意欲・態度） ・「知の総合伝達メディア」としての教育が文学・芸術の創造に貢献する方策を探究し続けることができる。（技能）（関心・意欲・態度）
文芸学特講ⅢA（世界の文学と文化）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、幅広い文学作品を読解し、鑑賞する。	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。（思考・判断・表現）	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅢB（日本の文学と美術）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	絵巻を通じて、テキスト（詞書）とイメージ（絵）が相互に補完し合って成立する文化について理解する。平安時代から鎌倉時代の絵巻作品をの詞書翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、絵巻制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	1. 古代・中世絵巻の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. くずし字が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。（技能） 3. 学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。（知識・理解）（技能） 4. 絵巻制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	1. 古代・中世絵巻の主要作品について基本的な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. くずし字がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。（技能） 3. 学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。（知識・理解）（技能） 4. 絵巻制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。（関心・意欲・態度）
論文研究	文芸学研究科 文芸学専攻 論文指導	2	2	修士論文を完成するための実際的な知識と技能を身に付ける。修士論文の提出期限に合わせ、計画的に調査・分析・考察・執筆を行い、論文の完成を目指す。	1. 修士論文を完成するための実際的な知識が十分身につけている。（知識・理解） 2. 修士論文を完成するための実際的な技能が十分身につけている。（技能） 3. 計画的に調査・分析・考察・執筆ができており、修士論文が完成している。（思考・判断・表現）	1. 修士論文を完成するための基礎的な知識が身に付いている。（知識・理解） 2. 修士論文を完成するための基礎的な技能が身に付いている。（技能） 3. 計画的に調査・分析・考察・執筆ができており、修士論文が完成している。（思考・判断・表現）

